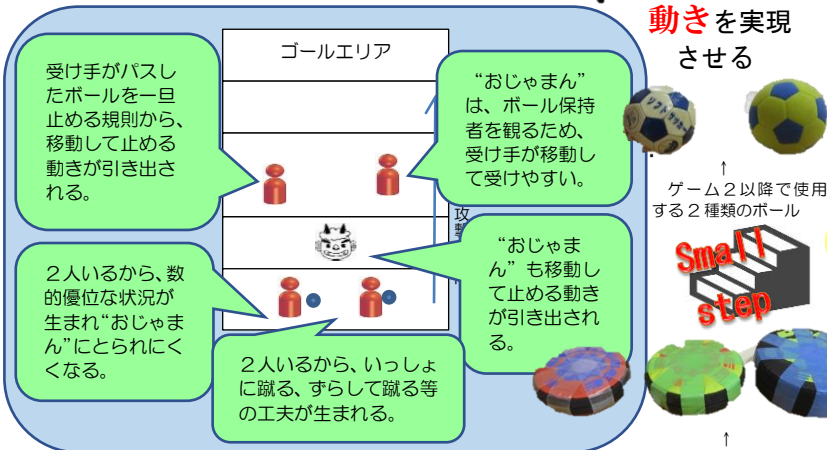


学年	教科等	単元名	日時
第2学年	体育科	シュー——と (ボール型ゲームに発展する簡単な規則で行われる易しいゲーム)	令和2年1月31日(金) 2校時

サンドイッチサッカーの場が動きを引き出す + 段階(用具)が



身体の対話を生むための異なる役割の往還が気付きを生む



動きの習得段階が違えば、言葉かけも変わる 子どもと対話すれば、さらに変わる

本時における言葉かけの重点は、パスの出し方である。動きの習得段階に合わせた身体の声の予想をし、それに基づく言葉かけを考えた。しかし、言葉かけは子どもとの対話をとおして変わっていった。その変容は、以下のとおりである。

身体の声 “どこにパスすればよいのか分からない”

言葉かけ 守りがいないところに、足をドンと踏み込んで蹴ってみよう。

子どもとの対話後→「守りがいないところに、“ドン！キック”」

身体の声 “蹴りたいところにパスが出せない”

言葉かけ (軸足の) つま先を蹴りたい方向に向けて蹴ってみよう。

子どもとの対話後→「つま先ねらいで蹴ってみよう。」

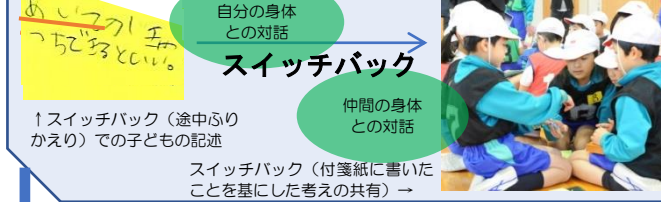
身体の声 “蹴りたいところにパスが出せる”

言葉かけ もう少し遠くからでもパスができるかな？

子どもとの対話後→「後ろの線からでもパスできるかな？」

身体を見つめるスイッチバック (途中ふりかえり)

パスをつなぐための解に近付いていく...



← 本時の 体育日記より

1/31 22コズ

シュー——と(8)

1. ほぐすほぐす

2. サンドイッチサッカー

① フットビーでサポイ

② フットビーでサポイ

③ スイッチバック

④ ボールでサポイ

どうすればパスをつなげられるかな?

パスをつなぐためにどうした?

おさるでづく

つづける人

どちらか大事

ける。1人が先にける。けるふり。ななめにける。つま先ねらい。おとり。

「受ける動き=止める」動きという意識が「おさるで動く」ことを身体をとおして気付くことができた学び

パスをつなぐためには、受け手と出し手の2者どちらも大事だと気付くことができた学び

授業をふりかえって

- 身体の声に耳を傾ける言葉かけは、子どもとの対話を基に創ることで、子ども間の言葉かけに波及した。その言葉は、学級集団にとっての学びの財産ともいえる。
- ゲーム間のスイッチバックで、自分や仲間の身体を見つめさせ、気付きを促し、その後再度ゲームを行わせることで、身体をとおした学びとなる。
- 何を基に対話するのが重要である。自分の身体なのか、仲間の身体なのか等を十分検討する必要がある。

○ 指導計画（11 時間）

- (1) オリエンテーションをする。————— 1 時間
- (2) いろいろなボールを蹴るゲームをする。————— 9 時間
- ・ 強く蹴る、狙って蹴る【おせおせ！だんボール、ペットボトルボーリング、トンネルゲーム】・・・ 2
 - ・ 狙って強く蹴る、受ける【たまごわりサッカー】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - ・ 相手が受けることができるように蹴る、コースに移動する、受ける【サンドイッチサッカー】・・・ 4（本時 2 / 4）
- (3) サンドイッチサッカー大会をする。————— 1 時間

○ 本時の目標

パスの出し手と受け手の 2 者でボールをつなぐことができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 場の準備 ○ 準備運動 <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうしたらパスをつないで、シュートができるかな？</p> </div> <p>3 フットビーを使った「サンドイッチサッカー」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲーム 1 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center;">ゴールエリア</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>【ゲーム 1 の規則】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 チーム 5 ～ 6 人 ・ 4 (攻) 対 1 (守) ・ 攻めはエリア①に 2 人、エリア③に 2 人、守りはエリア②に 1 人 ・ 攻めは、エリア①にいる 2 人がフットビーを 1 個ずつ所持 (計 2 個) → エリア③にいる仲間にパス → エリア③の子どもは、ゴールエリアにフットビーを通せたら得点 ・ 各チーム 6 回攻撃 (最高 12 点) ・ 攻めも守りも 1 回の攻撃毎にロテーション </div> </div> <p>4 ボールを使った「サンドイッチサッカー」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 用具の変更 <ul style="list-style-type: none"> ・ フットビー → ボール (2 種類から選択) ○ ゲーム 2 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ゲーム 2 の規則】</p> <p>基本的にはゲーム 1 と同様とするが、場合によっては、以下の変更も考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールエリア…横幅を狭める。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ スイッチバック (途中ふりかえり) <ul style="list-style-type: none"> ・ どうすれば、パスがつけられるか <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 守りがいないところに蹴る。 ・ 蹴る真似をする。 ・ 軸足のつま先を向ける。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 転がってくる場所に動く。 ・ 守りがいないところに動く。 ・ ボールをよく観て止める。 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲーム 3 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ゲーム 3 の規則】</p> <p>基本的にゲーム 1 ・ 2 と同様とする。</p> </div> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分かったか、できたか ○ パスをつなぐためにどうしたか <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 守りがいないところに蹴った。 ・ パスがくるところに素早く動いた。等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場の準備をさせることで、前時のゲームを想起することができるようにする。また、ボールを使って準備運動を行わせることで、ボールに慣れることができるようにする。 ○ 前時に記述した付箋紙から、子どもの「パスが守りにじゃまされてしまう」等の困り感を紹介する。「どうしたらよいか分かる？」と問うた後に、「できる？」と問うことで、一人一人が課題を自覚できるようにする。 ○ フットビーの使用によりパスをつなぐために必要な技能を緩和することで、パスが繋がった成功体験を基に、出し手や受け手がどう動けばよいか気付くことができるようにする。 ○ 身体の対話を生むために以下の手立てをとることで、仲間の動きから、パスをつなぐための解を見付けることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動観察者はエリア①の後方で観察 ・ 「パスを出す」「パスを受ける」の 2 者の役割を経験 ・ エリア③の子どもは「パスを受ける」→「シュートをする」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 弾みの少ないボールと弾むボールの 2 種類から選択させることで、パスを受ける動きを段階的に高めることができるようにする。 ○ 「シュートが簡単に決まるので、もう少し難しくしたい」等の規則の変更を希望する子どもがいることが予想される。その際は、子どもの思いと動きを基に対応する。 ○ 付箋紙に「どうすればパスがつけられるか」を記述させ、チームの仲間とふりかえらせることで、チーム全員の気付きを共有し、自分ができそうな動きに出合うことができるようにする。 ○ 仲間から得た自分に合う気付きを基にゲームを行うことで、「分かった」から「できた」に近付くことができるようにする。 ○ パスの仕方が分かった子ども、パスが上手くつなげられた子どもに挙手をさせることで、本時の学びを自覚することができるようにする。 ○ パスをつなぐためにどうしたかを問い、出し手と受け手のしたことを分けて板書することで、2 者で成立させた動きであることに気付かせたい。

○ めざす子どもの姿

「守りのいないところ」と「味方の位置」を基にパスを出したり、ボールの転がってくるコースに移動して受けたりし、つなぐことができている。

(知識・技能)【観察・学習プリント】

